

# DPFの目詰まり解消

## 低い温度でも効果発揮

### 大平潤販

大平潤販(中島裕晶社長、東京都港区)が販売するDPF(ディーゼル排気微粒子除去装置)専用クリーナー「スーパーディーゼルクリーナー(SDC)」は、

微粒子を効率的に燃焼することで、燃費改善やメンテナンスコスト削減が図れる。2017年6月に販売を開始して以来、3万本を売り上げた。同社はSDC開発主の青木化学研究所(青木久治社長、同)から販売権を取得

運送会社や整備工場をはじめ、業界団体・部品商などにも販路を拡大することにも、口コミによって販売数を伸ばしている。従来、DPFの目詰まりを解消するため、有害な微粒子を燃焼する「再生」を走行中に自動で行っていた。

一方、ストップ&ゴーの多いルート配送などは一定の温度まで上がりにくく、自動再生されないため、車が稼働していない時間帯に手動で再生する必要があった。SDCを燃料タンクに注入することで、通常の燃焼温度より低温でも効果が発

揮される。効率的に微粒子を燃焼してDPFの目詰まりを解消することで、エンジントラブルや故障による機器交換などの余計なコストを削減できるほか、ドライバーの負担軽減にもつな

がる。また、大平潤販では18年9月から、農機や建機向けの「ディーゼル専用インジエクタークリーナー(IJCC)」の販売を開始。SDC同様に燃料タンクに注入



「ドライバーの心理的負担も軽減する」と三好マネジャー

することで、インジエクターの汚れによるエンジン性能の低下を防ぐ。同社はSDC、IJCC合わせて年間5万本の販売を目指す。営業部の三好林太郎マネジャー(39)は「車両の稼働を止めずに目詰まりを解消することで、人手不足の対応に貢献できる。急なトラブルの発生や手動での再生を防ぎ、ドライバーの心理的負担も軽減する。今後、お客さまの困り事に対応しつつ、社会に貢献していきたい」と話している。(井内亨)